

## コラム

## コロナ禍で取り組んだ新たな作業 ～コロナに負けるな！！めざせ手作りマスク 200枚！！～

山中 智恵\*1

\*1 介護老人保健施設 三川しんあい園

2020年は私達医療従事者にとって、未だ経験したことがないような「感染対策」に追われた1年だったことと思います。医療・介護現場に関わる者としての自覚、自身の感染予防や外出自粛はもちろんのこと、訓練用具や機器・物品類の消毒の徹底、ソーシャルディスタンスを考えた環境設定、通所事業所における利用基準を設けるなど、それぞれの施設が方法を模索しながら取り組んだのではないのでしょうか。

本コラムを執筆している現在(11月)は、マスク不足は緩和され、容易にマスクが手に入るようになりました。感染が拡大していった今年のはじめ頃は、日本中がマスク不足に悩まされ、マスクは職員1日1枚と指示が出たり、サージカルマスクを手洗いして使用するほどでした。

当園の通所リハビリ(以下、デイケア)も他事業所と同様、広範囲の地区に暮らす利用者が一堂に集ります。一人ひとりができる感染対策の第一歩として「デイケアにはマスクをつけてきましょう」と呼びかけ、利用中はマスク着用を促しました。しかし、店頭にはマスクは並ばず、国からのマスクは届かず、「金を払うから施設のマスクを分けてくれ…」と言われる方までいらっしゃいました。

そこで「手に入りにくいのであれば、自分達でマスクを作ろう」と、デイケア利用者でマスク作りに取り組みました。当園では年間を通し、花見や夏祭りなど、様々な行事を企画します。その年間行事の一環として「マスク作り月間」と題し、利用者全員が参加する形で作業をはじめました。これが想像をはるかに超える意外なヒット…作業工程を細かく分けながら取り組んだところ、通常、手工芸活動を好まない男性利用者も、進んで作業に参加する姿が見

られました。型取り、裁断、波縫い、まつり縫い、洗濯をして干す、アイロンがけ、ゴム切り、ゴム通しまでを工程分析し、工程毎のグループに職員を配置し、デイケア利用者全体で取り組みました。その成果として、約2ヶ月間で400枚を超える手作りマスクができあがりました。

デイケアで始めたマスク作りは、利用中の活動だけにとどまらず、それぞれの利用者の生活にも汎化していきました。「自宅で使わなくなった布や手ぬぐい、若い頃に着ていたワンピースや浴衣類をタンスから探し出し、マスクの生地として寄付してくれた」「夫の分のマスクも作ってみたいと余暇活動に繋がった」「長年使用していなかったミシンが動かないので、ミシン屋を呼んで修理してもらい、友人達に何枚もプレゼントした」など、当園ではじめての活動がきっかけとなり、自宅での作業活動に拡がり、家族や友人へ贈るといった行為に繋がっていきました。これまでマスクというものは、感染を予防するために身につけ、清潔が主のイメージでしたが、手作りマスクは見た目も華やかで、色とりどりのマスクを着用して来園される様子は、コロナ禍においてデイケア全体が明るいイメージにも変わりました。

デイケアは制度改正のたびに、機能訓練とマネジメント業務に重点がおかれ、会議の出席や住宅訪問評価指導に関わる割合が多くなっています。その流れの中で、自然と縮小していったのが手工芸活動でした。今回のマスク作りは、デイケア全体で取り組むことができた活動であり、生活に効果をもたらすなど、改めて作業のもつ可能性を感じることができました。～コロナに負けるな～、当園が取り組んだ活動の紹介でした。